

博報堂は東京大学の研究組織「知の構造化センター」内に、将来の社会課題を予測し解決策を探る研究部会を開設した。国内外の企業や大学などからも参加を募

い。研究結果は提言にまとめ適時発表する。開設したのは「ソーシャライゼーション部会」。企業などの中期経営計画のよつに二、三年後を予測す

## 博報堂、東大に研究部会

る産学横断的な組織で、資源不足や地球温暖化、少子高齢化といった社会問題の解決方法を導き出す一方、関連市場で生まれる新規ビジネスを発掘するのが狙

るのではなく、十年以降にどんな社会問題や課題が顕在化するかを予測する。当初は、東大と博報堂の教授や研究者のほか、メーカーなど五、六社の企画担当者

### 将来の社会課題予測 産学横断で解決策探る

を加えた約二十人でスタート。米マサチューセッツ工科大学やオランダのアムステルダム大学の学生なども参加する予定。

研究テーマは、参加企業や学生などに持ち込んでもらう。年内に研究対象となる社会問題を洗い出し、来春をメドにレポートをまとめる。今後も企業や大学の参加者を募集する。業界や企業が個別に対応していた社会問題を共有化し、多面的な解決策を見つけ出す。

広 報 室

media

日経産業新聞

date '08. 6. 30

( )